

吉田富三賞

吉田富三賞は日本癌学会と浅川町と吉田富三顕彰会が、偉大ながん研究者吉田富三博士を記念して設けられたものである。賞は、年一回優れたがん研究者に授与して、その功績を表彰し、あわせてがん研究の一層の振興をはかることを目的としている。この賞の制定の背景には、浅川町がふるさと創生を機に、全町あげて、吉田富三博士の顕彰事業に取り組んでいることに対して、日本癌学会が応えるという相互信頼の絆がある。又、財団法人浅川町吉田富三顕彰会は、吉田富三賞に協賛している。



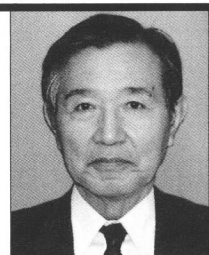
第一回 ■平成4年
杉村 隆
すぎむら たかし

■プロフィール
一九二六（大正一五）年四月二〇日東京都生まれ。一九四九（昭和二四）年東京大学医学部卒。同放射線科教室助手。一九五四（昭和二九）年癌研究会癌研究所研究員。一九六二（昭和三七）年同研究所生化学部長。一九七四（昭和四九）年同研究所所長。一九八四（昭和五九）年同センター総長となる。発がん性物質の研究に取組むなかで、胃がんの人工的発がんに成功し、がん学の進歩に大きく貢献する。一九七八（昭和五三）年文化勲章受賞。二〇〇一（平成一三）年勲一等瑞宝章受賞。一九九二（平成四）年より同センター名誉総長。



第二回 ■平成5年
菅野 晴夫
すがの はるお

■プロフィール
一九二五（大正一四）年九月十三日山形県寒河江市生まれ。一九四七（昭和二二）年三月旧制山形高等学校理科卒業。一九五一（昭和二六）年東京大学医学部卒業。同病理学教室を経て、一九六五（昭和四〇）年癌研究会癌研究所に入り、一九六六（昭和四一）年同病理部長。一九七三（昭和四八）年同所長となる。胃がん細胞の継代培養、上咽頭がんからのEBウイルスの検出、脱がん現象など、常にかん病理の最前線で活躍されている日本を代表するがん病理学者。一九九三（平成五）年七月から癌研究会癌研究所名誉所長。



第三回 ■平成6年
豊島 久真男
とよしま くまお

■プロフィール
一九三〇（昭和五）年大阪市に生まれる。一九五四（昭和二九）年大阪大学医学部卒業。同大学院。一九七二（昭和四七）年大阪大学微生物病研究所教授。一九七九（昭和五四）年東京大学医学科研究所教授。一九八七（昭和六二）年同研究所所長。一九九四（平成六）年より大阪府立成人病センター総長となる。発がんメカニズムの研究に取組みラウス肉腫ウイルスががん遺伝子を発見、その後のがん遺伝子研究の発展に大きく貢献した。一九九〇（平成二）年大阪大学微生物病研究所所長。一九九一（平成三）年東京大学名誉教授。一九九三（平成五）年大阪大学名誉教授。一九九三（平成五）年日本学士院会員。一九九四（平成六）年文部省学術審議会委員。一九九四（平成六）年科学技術振興事業団PRESTO領域総括。一九九七（平成九）年厚生省厚生科学審議会会長。一九九八（平成一〇）年大阪府立成人病センター名誉総長。一九九八（平成一〇）年財団法人住友病院院長。二〇〇〇（平成一三）年理化学研究所遺伝子多型研究センター所長。一九七六（昭和五二）年高松市立癌研究所所長。一九八五（昭和六〇）年武田医学賞受賞。一九八七（昭和六二）年日本学士院賞。一九九三（平成五）年同会員。一九九〇（平成二）年朝日賞受賞。一九九四（平成六）年吉田富三賞受賞。一九九四（平成六）年ローヌアブローンローラー第三回世界保健賞受賞。一九九六（平成八）年フランス政府教育功労章受賞。一九九八（平成一〇）年文化功労者。二〇〇一（平成一三）年文化勲章受賞。豊島博士の業績の中で、最も重要なものはがん遺伝子の発見である。一九六九（昭和四四）年Rous肉腫ウイルスB77株温度感受性（ts）変異株の分離に成功し、初めてウイルスががん遺伝子の存在を証明した。



第四回 ■平成7年
佐藤 春郎
さとう はるお

■プロフィール
一九二〇（大正九）年東京生まれ、仙台に育つ。旧制三高卒。一九四五（昭和二十）年東北大学医学部卒。同大学院特別研究生となり、吉田富三教授の指導を受く。米国立癌研究所研究員（一九五二〜五五）。昭和三五年福島県立医科大学教授（病理学）。昭和三五年東北大学抗酸菌病研究所肺癌部門教授。同研究所所長併任（昭和五三〜五九）年。一九八四（昭和五九）年定年退職。福島労災病院院長を務めた。吉田肉腫・腹水肝癌を用いた発癌・増殖・転移・腫瘍血流の研究を行う。癌昇圧化学療法を提唱。日本癌学会・日本癌治療学会・日本肺胃癌学会名誉会員。東北大学名誉教授。